

食事への対応について(マニュアル)



◎子どもの特性

- ・子どもは思いもよらない行動を起こす
- ・子どもの嚥下発達、摂食機能が未発達⇒保護者との情報共有



様々な要因が

誤嚥・誤飲・窒息事故につながる！

◎食べ物や玩具の性質

- ・大きさ、形状
- ・食感(表面の滑らかさ、弾力性、固さ、噛み切りにくさ)



◎職員の窒息危険性への認識不足

＜給食等で提供を避ける食材の一例＞ ・ミニトマト ・乾いたナッツ、豆類等 ・白玉団子

子ども一人一人の様子を日常的に
把握する

食べること＝△危険の認識を持ち観察する！

こどもの様子を把握する

【健康状態】・健康観察

- ・当日のこどもの健康状況をていねいに保護者から聞き取る

【行動】・一人一人の様子に目を配る

- ・子どもの発達と行動 職員間(保育士・調理員・看護師等)で情報共有することが大切！

【口腔評価】:一人ひとりの口腔評価をしておく

誤 嚥・・・食道へ送り込まれるはずの食物が誤って咽頭や、気管に入ること

誤 飲・・・食物以外の物を誤って飲み込んでしまうこと

☆チャイルドマウスを確認しましょう！

子供の口の大きさは

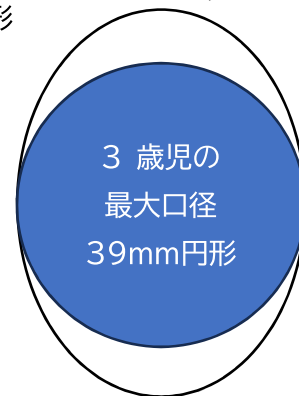


子どもの口の大きさは3歳児で直径約4cm。これより小さいものは子どもの口にすっぽり入り、窒息の原因になる危険があります。

出典：政府広報オンライン

50mm の楕円形

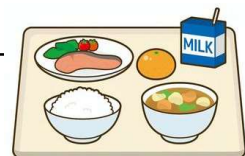
※この円形・楕円形の中に入るものは子どもの口に入ります。
縦、横、斜めにして楕円形に入りそうなものは、窒息の危険があります。



誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント ☒

1. 環境

- ☐ 食器・食具(スプーン・フォーク・補助箸・はし)は適切か
- ☐ 机・椅子の高さは適切か
- ☐ 慌てて配膳していないか (※アレルギー児もいるため、誤配膳防止を含む)
- ☐ 特別食(アレルギー児や宗教で決められた食事)の児には、おぼんや食器の色や形を分けて適切に配膳しているか
- ☐ 周囲に誤嚥・誤飲・窒息につながるものを持ち込んだり、身につけたり、落ちていないか



2. 食品の形態

- ☐ 大きさ・形状・温度・量・粘度等は適切か
- ☐ 個々に応じた一口の量・大きさに調整しているか
- ☐ 球状のものはカットされているか



- ☐ 正しい姿勢で座っているか
- ☐ 子どもの意思に合ったタイミングで食べさせているか
- ☐ 子どもの口に合った量を与えているか 詰め込まないよう声をかけているか
- ☐ よく噛むよう伝えているか
- ☐ 食べ物を飲み込んだことを確認しているか
- ☐ 汁物などの水分を適切に与えているか
- ☐ 食事中に驚かせていないか
- ☐ 「笑う・泣く」が 起きたとき詰まらないよう観察しているか
- ☐ 食事終了後、口の中に食べ物が入っていないか
- ☐ 眠くなった時、無理に口に入れていないか
- ☐ 食べるスピードが速すぎないか

4. 食事以外(保育時間中)

- ☐ 誤嚥・誤飲・窒息につながるものを持ち込んだり、身につけていないか
(家庭や園外から、おもちゃ、小石や木の実等の自然物、菓子・雑貨を持参していないか)
- ☐ 発達に応じたおもちゃを選択しているか(素材や大きさなど)
- ☐ ボタンや髪留め、飾りやアクセサリー、ビニール袋等が身近にないか
- ☐ 子どもの手の届く場所に危険なものがないか(口に入るものなど)
- ☐ 薬品、洗剤、肥料の管理が徹底できているか
- ☐ 菜園活動中や散歩中等に、作物や木の実等を口に入れていないか

⚠ 事故発生時の対応（救命措置が必要な場合）

1. 初期対応 ※詳細は別紙マニュアルあり緊急医療対策

園児把握の職員…応急処置ができるよう場所を空け、他の園児をその場から離す

【チェックポイント①】

反応の確認

- ☐ 反応がない
- ☐ 反応があるが、いつもの反応ではない



【チェックポイント②】

救急車の手配（119番通報）

管理者・責任者・看護師に報告し、応援を呼ぶ、又救急車を要請する



【チェックポイント③】

呼吸の確認

- ☐ 呼吸はしているか
 - ①呼吸がない ⇒ 心肺蘇生を行う（AED 装着）
 - ②呼吸がある ⇒ 様子観察



【チェックポイント④】

連絡

- ☐ 保護者へ連絡
- ☐ 関係機関への連絡…法人本部、県庁（障害福祉課）・富山市役所（こども健康課）